

### (1) シニア自然大学との出会い

「貴方、これ面白そうね」と、妻が日経新聞の記事（1994年3月23日）を指す。「定年後は自然観察アドバイザーに～プロのナチュラルリストを育てるためのシニア自然大学～」

1992年2月勤務先企業を退任したが、残務整理も終わり、心の整理もついていた。当面は健康の回復をはかりつつ、精神的エネルギーを充電しようと家でぶらぶらしていた時であった。

妻の魂胆ははじめから判っていた。「亭主元気で留守がよい」と追い出しにかかっているのである。しかし、「自然」という言葉には、強く引かれるものがあった。よし、ここは黙って妻の魂胆に乗ってやろうと、軽い気持ちで、シニア自然大学への入学を申し込んだのであった。

### (2) 社会貢献ボランティア活動への決意

「自然」について関心はあったものの、知識については、全く白紙の状態、シニア自然大学に入学した私にとって、植物、野鳥、昆虫などの生態から環境問題にいたる幅広い講義と実習は、期待を裏切らない充実したものであった。また同時に、素晴らしい同級生達に巡り会えたことも、大きな喜びであった。しかしながら、心の底では、ひそかに戸惑いを感じていたのである。

我々の活動は、基本的にはプロではなく、ボランティアであるという。つまり、その活動には社会的にみて、必ずしも正当な価値の評価がなされている訳ではないらしい。はたして、このまま「社会的に未だ価値が正当に認められない活動」に没入しても良いだろうか、と密かに悩んでいたのである。

やがて転機が訪れる。それは、保全協会の事務所で、偶然にも協会監事の熊野実夫先生に出会った時であった。熊野先生は、近畿公認会計士会の会長であり、資本会計や保証会計の理論を、日本ではじめて確立した、日本を代表する会計学者である。その先生が、超多忙な時間を割いて、公益法人の監査の仕事を、ボランティア活動として引き受けておられたのである。「志甫さんがシニア自然大学にいれば、是非この協会監事の仕事を引き継いでいただきたい。協会理事長には、自信をもって推薦しておく」と尊敬する恩師からいわれて断ることも出来ず、1996年協会監事に就任。これで心の迷いも吹き飛び、シニア自然大学のボランティア活動に全力投球の決意をしたのであった。

### (3) 研究部環境科の創立

シニア自然大学開校の3年目の1996年から、講座修了生の新しい進路として、研究サークルを結成して、活動を始めることとなったが、翌1997年には正式に研究部研究科として組織的に活動することになった。この研究部の創立には、3つの目的があったと思われる。

①当時要望の多かった、講座修了生のための次の進路を準備すること。

②専門能力のレベルアップのために、自己研究の場を準備すること。そして、シニア自然大学の内部講師として活躍できる人材を育成すること。

③当時増加しつつあった、外部からの委託事業の実践部隊として活躍できること。

そこで我々も、賛同者11名とともに、環境教育科の創立を申請したのである。環境教育科の創立メンバーは次の11名であった。

1. 東 倫子（シニア3期）
2. 井口禎三（〃）
3. 上山 博（〃）
4. 川井秀夫（〃）
5. 志甫忠男（シニア1期）
6. 清水 滋（シニア3期）
7. 竹内キヨ子（自然2期）
8. 原田広巳（シニア3期）
9. 三井達夫（〃）
10. 水田英美子（〃）
11. 宮川三郎（シニア1期）

なお当初、環境教育科として発足したのは、当時環境団体という言葉には、環境保全のために行政に立ち向かう反対運動のイメージが感じられたからであり、後日その心配がなくなり、ようやく環境科に名称変更したのである。

#### （4）何故環境科を設立しようと思ったか

①研究部の創立の目的の一つは、専門能力のレベルアップにより、シニア自然大学の内部講師として活躍できる実力を養成することであった。人気のあった植物科、野鳥科、昆虫科等では、講師の専門性が高く、実力のギャップが大きすぎて、必要レベルに達するのは容易ではないと思われたこと。

②環境問題については、問題の提起が比較的新しく、講師の専門性も、比較的安く感じられ、多少の努力をすれば、専門家としての必要レベルに到達可能と感じられたことである。

#### （5）環境科運営の基本方針

環境科の初代幹事として心がけた運営の基本方針は次の3点であった。

##### ①自主性の尊重

ボランティア組織であるから、外部からの指示命令に従って行動するのではなく、あくまで自主的、自発的に責任をもって行動するよう心がけること。

##### ②良好な人間関係の醸成

常に仲良く、楽しく、良い人間関係を育成していくことがボランティア組織における求心力の源泉であること。

##### ③全力投球

シニア自然大学の環境問題の専門家集団として、十分な活躍ができるよう実力の向上に全力を尽くすこと。

## (6) 基本スケジュール

当初の環境科の基本スケジュールは下記のとおりであった。

- ・ 金曜日第1週・・・研究部の合同講義に出席
- ・ 金曜日第2週・・・環境問題について自主研究発表（毎週2名程度）  
例えば原田広巳氏による「チェルノブイル原発事故の詳細について」の発表など極めてインパクトのある発表がおこなわれた。
- ・ 金曜日第3週・・・環境施設などの見学会  
例えば関西電力大飯原子力発電所の見学会
- ・ 金曜日第4週・・・万博記念公園樹木調査  
万博公園には、約100万本の樹木があるが、この調査により略全樹木をカバーしている。ソウシジュ、ナナカマド、ハルニレ、バクチノキ、ヒトツバタゴ、ヒョウタンボク、ミヤマウメモドキ、チャンチンモドキ

なお、研究部の当初の目的の一つであった「講座内部講師の育成」については、環境科発足の2年目（1998年）には早くも実現し、シニア自然大学本講座のカリキュラムの中で、延べ8名の環境科員が講師として登場し、好評を博している。

（井口禎三、川井秀夫、志甫忠男、清水滋、鈴木二三弥、三井達夫の各氏ほか）

以上

# 自然と環境科の歩み

作成 2023.4.9

- 1994.05 (社)大阪自然環境保全協会が「大阪シニア自然大学」を開校
- 1995.03 1期生45名のほとんどが、修了を控えて留年を希望。  
2期生受け入れのため認められず。
- 05 1期修了生の有志で、サークル活動を開始。(加藤尚武著 「環境倫理学のすすめ」の輪読)
- 1996.04 研究部設置 (インタープリテーション・昆虫・植物・ビオトープ・野鳥の5科)
- 1997.04 研究部に、志甫忠男氏の発議で「環境教育科」を開設。**  
科員 8名  
・幹事：志甫忠男  
・目的：自然環境保全についての啓蒙活動を行うための実力を養う  
・日程：第1金曜日 研究部共通講義  
第2金曜日 環境保全施設等視察活動  
第3金曜日 「万博公園樹木マップ」作成活動  
第4金曜日 「私達を取り巻く環境問題」に関する各自の担当テーマについて研究発表と質疑を行い、環境問題一般の基礎知識を共有するための活動
- 1998.06 環境教育科主催のシンポジウム「環境問題を考える」を開催
- 1999.02 環境フェスティバル(環境京育科活動報告会)を開催
- 2000.04 科名を「環境科」に変更**  
科員 20名
- 2003.01 科員増に対応するため、科員のアンケート調査・討議をおこなった結果、複数幹事制と会計担当者の設置を決定
- 2003.04 体制刷新  
・目的：自然保護・環境保全について、啓蒙活動を推進するための実力を養う  
・スローガン：「学習から行動へ」「知識の共有」「融和と個性の尊重」  
・カリキュラム：第1金曜日 共通講義  
第2・3金曜日 施設見学・野外活動  
第4金曜日 環境問題個人発表  
・スタッフ：代表世話人 川井秀夫  
アシスタント 田中正一 三原光生 田中 晃  
会計担当 湯沢 浩  
・科員：30名
- 2004.04 運営指針改正  
・環境科 キーワード  
○ 環境問題の研鑽に努め、啓蒙活動に寄与する。  
○ それぞれの価値観を尊重し、知識の共有を諮る。  
○ 仲間との親睦に努め、自由空間を楽しむ。  
・スタッフ：代表 川井秀夫 副代表 田中 晃  
・アシスタント：各期代表 8名  
・会計：村田 紘  
・カリキュラム：2003年度と同じ  
・その他：企画会議の実施(適時)  
外部機関との組織活動への参加意識の高揚につとめる  
・科員：40名

- 2005.04 代表 田中 晃 44名  
・環境科ホームページ開設 (南→平山)
- 2006.04 代表 田中 晃 46名
- 2007.04 代表 田中 晃 46名 (男37、女9)  
組織改正  
・代表の下に運営委員会を設置する。(運営委員11名)  
・運営委員会には企画会議・会計・広報・事務・プロジェクト統括を置き、それぞれ責任者をつける。  
企画会議：カリキュラムの作成と運営 (責任者 長谷川)  
会計：予算の執行と管理 (責任者 島崎)  
広報：ホームページの作成 (責任者 平山)  
事務：名簿の作成・管理・会場の確保 (責任者 西森)  
プロジェクト担当：ナニワエコ会議等社会貢献活動を統括 (責任者 小林)  
・代表及び運営委員の任期を2年とする。ただし、再任を妨げない。  
・グループ研究を進める  
地球温暖化・エネルギー・水と土壌・サステナビリティがキーワードの4グループ
- 2008.04 幹事 長谷川清満  
運営委員 9名  
科員 50名 (男41、女9)
- 2009.04 幹事 加藤 良徳 副幹事 浅田 稔  
運営委員 14名  
科員 50名 (男39、女11)  
テーマ「環境面から見た、人と自然の共生」  
グループ研究に「緑化～都市環境」を新設  
社会貢献 「渦が森・環境の森」整備開始
- 2010.04 幹事 加藤 良徳 副幹事 平山 元哉  
運営委員 14名 (会計、広報、事務、対外、班長・副班長、新人対応、新人代表)  
科員 58名 (男43、女15)  
組織改正 4班編成とし、班長・副班長を置く (運営委員とする)  
グループ研究に「エコ・リサーチ」を新設
- 2011.04 幹事 一ノ瀬昇 副幹事 飯盛秀穂 副幹事 小林 薫  
運営委員 13名 (会計、広報、事務、対外、班長、新人対応、グループ長、相談役)  
科員 59名 (男44、女15)  
グループ研究に「環境インプリ」を新設
- 2012.04 24年度運営委員  
幹事：一ノ瀬昇、副幹事：小林薫、会計：奥野美佐子、総務：栗生晃、総務代理：樋口修、広報：石井勇、  
新人対応：須崎俊英、班長：石橋美紀・白川欣一・加藤良徳・須崎俊英、顧問：田中晃・加藤良徳  
・平山元哉  
科 員 56名 (男42、女14)  
テーマ「Think」 (考える)  
グループ研究活動  
・地球温暖化G ・エネルギーG ・水・土壌G ・都市環境・緑化G  
・エコ・リサーチG ・環境インプリG ・環境インプリ実施協力G (重複参加)

#### 2013.04 25年度運営委員

幹事：飯盛秀穂、副幹事：清野八洲一、会計：井上佳代子、総務：樋口修、総務代理：白川欣一、広報：石井勇、新人対応：須崎俊英、班長：石橋美紀・白川欣一・加藤良徳・須崎俊英、顧問：田中晃・一ノ瀬

科員 55名 (男39、女16)

テーマ “**P r a c t i c e**” (実行、実施)

グループ研究活動

- ・地球温暖化G ・エネルギーG ・水・土壌G ・都市環境・緑化G
- ・エコ・リサーチG ・環境インプリG

#### 2014.04 26年度運営委員

幹事：飯盛秀穂、副幹事：清野八洲一、会計：井上佳代子、総務：樋口修、総務代理：野村誠七  
広報：石井勇・北仲忠、新人対応：須崎俊英・井上佳代子、班長：一ノ瀬昇・野村誠七・加藤良徳  
・須崎俊英、顧問：田中晃

科員 49名 (男34、女15)

テーマ “**P r a c t i c e**” (実行、実施) ……継続

グループ研究活動

- ・地球温暖化G ・エネルギーG ・水・土壌G ・都市環境・文化G
- ・エコ・リサーチG ・グリーンポケットG (新規)

#### 2015.04 27年度運営委員

幹事：須崎俊英、副幹事：石橋美紀、会計：奥野美佐子、総務：菊池光矩、総務代理：伊月幸二郎  
広報：石井勇・大野達男・北仲忠、新人対応：大野達男、班長：飛山昌夫・伊月幸二郎・世古民雄  
顧問：飯盛秀穂

※4班体制から3班体制とする (1月から実施中)

科員 49名 (男32、女17)

目標 **「Co-Work」** 全員で運営する外向きの元気な環境科を作ることを目指す。

グループ研究活動

- ・地球温暖化G ・エネルギーG ・水・土壌G ・都市環境・文化G
- ・エコ・リサーチG ・グリーンポケットG

#### 2016.04 28年度運営委員

幹事：須崎俊英、副幹事：石橋美紀、会計：奥野美佐子、総務：菊池光矩、総務代理：内海孝、  
広報：大野達男・北仲忠、新人対応：大野達男、班長：内海孝・田中晃・篠原エリ子、顧問：加藤良徳

科員 46名 (男30、女16)

目標 **「Co-Work」** 全員で運営する外向きの元気な環境科を作ることを目指す。

グループ研究活動

- ・地球温暖化G ・エネルギーG ・水・土壌G ・都市環境・文化G
- ・エコ・リサーチG ・グリーンポケットG

#### 2017.04 29年度運営委員

幹事：清野八洲一 (代理：副幹事)、副幹事：石井勇 (代理：総務)、会計：篠原エリ子 (代理：副幹事)、  
総務：前中康司 (代理：会計)、広報：石井勇・大野達男・北仲忠、班長：樋口修・金山節男・世古民雄  
顧問：須崎俊英

科員 39名 (男27、女12)

目標 全員参画で活動内容の充実を図る…今一度、皆で考えよう

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②エネルギーG ③水・土壌G、 ④都市環境・文化G
- ⑤エコ・リサーチG ⑥グリーンポケットG

#### 2018.04 科名変更 環境科を「自然と環境科」とし、堅い・難しいイメージの払拭を図る。

##### 30年度運営委員

幹事：清野八洲一 (代理：副幹事)、副幹事：石井勇 (代理：総務)、会計：篠原エリ子 (代理：副幹事)、  
総務：前中康司 (代理：会計)、広報：石井勇・大野達男・北仲忠、班長：服部宏也・金山節男・花島久子

顧問：須崎俊英、沖本然生（勧誘担当）

科員 36名（男24、女12）

目標 全員参画で活動内容の充実を図る・・・今一度、皆で考えよう

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②エネルギーG ③水・土壌G ④環境と健康G
- ⑤エコ・リサーチG ⑥グリーンポケットG

#### 2019.04 31年度運営委員

幹事：樋口修（代理：副幹事）、副幹事：金山節男（代理：幹事）、会計：花島久子（代理：総務）、総務：上須久美子（代理：会計）、広報：大野達男・内海孝、班長：須崎俊英・宮中明子・花島久子

顧問：清野八洲一、沖本然生（勧誘担当）

科員 31名（男21、女10）

目標 活動内容の充実を図り、全員参加の楽しい科を目指す

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②環境と健康G ③エコ・リサーチG ④グリーンポケットG

#### 2020.07 令和2年度運営委員

幹事：樋口修（代理：副幹事）、副幹事：金山節男（代理：幹事）、会計：花島久子（代理：総務）、総務：上須久美子（代理：会計）、広報：大野達男・内海孝、班長：須崎俊英・小林薫・花島久子

顧問：清野八洲一、沖本然生（勧誘担当）

科員 28名（男20、女8）

目標 活動内容の充実を図り、全員参加の楽しい科を目指す

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②環境と健康G ③エコ・リサーチG ④グリーンポケットG

#### 2021.04 令和3年度運営委員

幹事：小林薫（代理：副幹事）、副幹事：平山元哉（代理：幹事）、会計：菊池光矩（代理：総務）、総務：長谷川清満（代理：会計）、広報：大野達男・内海孝、班長：須崎俊英・加藤良徳・田中晃（代行：樋口修）、顧問：樋口修、金山節男（大学校関連）沖本然生（勧誘担当）

科員 22名（男19、女3）

目標 新型コロナウイルスと上手に共存、科員の拡大、参加者増加を図る

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②環境と健康G ③エコ・リサーチG

#### 2022.04 令和4年度運営委員

幹事：小林薫（代理：副幹事）、副幹事：平山元哉（代理：幹事）、会計：菊池光矩（代理：総務）  
総務：長谷川清満（代理：会計）、広報：内海孝、班長：金山節男・高城光一、顧問：樋口修、金山節男（大学校関連）、沖本然生（勧誘担当）

科員 18名（男17、女1）

目標 新型コロナウイルスと上手に共存、科員の拡大、参加者増加を図る

グループ研究活動

- ①地球温暖化G ②環境と健康G ③エコ・リサーチG

#### 2023.04 令和5年度運営委員

幹事：小林薫、副幹事：高城光一、会計：菊池光矩、総務：長谷川清満、行事担当：梶木福枝

科員：6名（男5、女1）

グループ研究活動：統一課題